

た新たな高温域も認められなかった。

南岳山頂火口では、5月21日、6月16日及び21日に小規模な噴火を観測したが、爆発的噴火はなかった。

火山性地震や火山性微動は、5月7日以降は少ない状態で経過していたが、6月7日と6月14～15日に一時的にやや増加した。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入による膨張が引き続き観測されている。

●薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上200～300mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。振幅の小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

●口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

5月21日に行った現地調査では、新岳火口内及びその周辺で引き続き熱活動の高まりが認められた。

GPS連続観測、GPS繰り返し観測および光波距離計の繰り返し観測では新岳の膨張を示す傾向は、昨年12月以降鈍化しつつも継続している。

遠望カメラ(新岳火口の北西約3kmに設置)による観測では新岳火口周辺の噴気等は観測されなかった。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

5月8日に御岳火口で爆発的噴火が3回あったほか、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、小規模な噴火が時々発生した。6月12日には、噴火活動に伴う火山性連続微動が観測されたほか、火山性地震や火山性微動が一時的にやや多くなった。その他の日は、火山性地震および火山性微動ともに少ない状態で経過した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm
(文責: 気象庁地震火山部火山課 加藤幸司)

○東京大学テニユアトラック教員公募について

1. 公募人員: 東京大学若手研究者自立促進プログラムによる、フロンティア研究チームリーダーもしくはフロンティア研究員 2名

2. 研究分野: 地震・火山に関係する固体地球科学分野
3. 研究環境: 研究費は初年度に約1000万円、2年度から300～700万円程度を支給。研究費でポストク等を雇用することも可。スペースは50平米程度を提供。
4. 応募資格: 博士の学位を有する者(外国での同等の学位を含む)。
5. 雇用条件: フロンティア研究チームリーダーは特任准教授もしくは特任講師として、またフロンティア研究員は特任助教として、2012年3月31日までの任期付き雇用。ただし、任期終了時に研究業績を審査のうえ、地震研究所専任教員として採用される可能性あり。
6. 提出書類:
 - (1) 履歴書(市販用紙可)(外部資金獲得状況、受賞、招待講演も記載)
 - (2) 業績リスト(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
 - (3) 主要論文の別刷り3編(コピー可)
 - (4) 研究業績の概要(2～4ページ程度)
 - (5) 今後の研究計画(2～4ページ程度)(応募する職種を明記のこと)
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の書面による所見。氏名、連絡先とe-mailアドレスを記載のこと
7. 公募締切: 2007年9月10日(月) 必着
8. 採用予定時期: 2008年1月
9. 問い合わせ先: 東京大学地震研究所火山噴火予知研究センター 武尾 実
TEL: (03) 5841-5707
E-mail: takeo@eri.u-tokyo.ac.jp
10. 応募書類提出先:
〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所 人事係 宛
封書を用い、表に「テニユア・トラック教員応募書類在中」と朱書きし、書留郵便で送付のこと。
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月2日送信しました)

○教員の公募について

【京都大学防災研究所】

1. 公募人員: 准教授 1名
2. 所属: 総合防災研究グループ社会防災研究部門都市防災計画研究分野
3. 研究内容: 都市域大災害発生時のハザード評価などをはじめとし、都市域に潜在する種々の災害に対する危険診断、危険度評価、住民や財産の保護のた

めの防災計画手法に関する研究、また都市の歴史・文化・環境的観点をふまえた景観・環境の保全・創生と災害からの安全性の調和を意識した都市防災計画方法論に関する研究を、他の関連分野とも協同しながら実施する。

4. 任用時期: 任用決定後可能な限り早い時期
5. 応募資格: 博士の学位を有し、上記の研究内容に関連する分野において優れた知識、能力及び研究実績を有する者。国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. 提出書類: 次の(1)~(6)一式
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧(審査付き論文とその他の論文、著書、論説、報告などに区分けしたものの一覧表)
 - (3) 主要論文別刷(コピー可) 5編
 - (4) 研究業績の概要(A4用紙2枚以内)
 - (5) 今後の研究計画及び抱負(A4用紙3枚以内:説明図の添付可)

(これまでの実績を踏まえてどのような貢献を行うか、応募者の考えを示すこと)
 - (6) 推薦書、または応募者について意見を伺える方(2名)の氏名と連絡先
7. 応募期限: 平成19年9月14日(金)【必着】
8. 書類提出先:

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学宇治地区事務部
防災研究所担当事務室長 麻田 茂 気付
社会防災研究部門 都市防災計画研究分野
准教授候補者選考委員会 宛
(封書の表には「教員応募書類在中」と朱書きし、
郵送の場合は書留にすること)
9. 問い合わせ先:

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学宇治地区事務部
防災研究所担当事務室長 麻田 茂
社会防災研究部門 都市防災計画研究分野
准教授候補者選考委員会
E-mail: asada@uji.kyoto-u.ac.jp
(封書または電子メールに限る)
10. その他:

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。

なお、公募要項は下記 URL にても公開しております。

http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/contents/kobo.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月12日送信しました)

○教員の公募について

【京都大学防災研究所】

1. 公募人員: 教授1名
2. 所 属: 地震・火山研究グループ 地震予知研究センター 地震予知情報研究領域
3. 研究内容等: 地震活動、地殻変動等の地球科学的各種観測データの収集とデータベースの構築を行い、地震予知の基礎となる地球科学的情報の評価手法および効率的な利用方法の研究を推進する。また、地震予知のための総合的な研究観測・調査を企画・推進する。

また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。
4. 任用時期: 平成20年4月1日
5. 応募資格: 博士の学位を有するもの

国籍は問わないが、日常的に日本語が使えることが望まれる。
6. 提出書類: 次の(1)~(6)各一式
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧(Peer Reviewed Paper およびその他に区分けした論文、著書等の一覧表)
 - (3) 主要論文別刷(コピー可) 5編
 - (4) 研究業績の概要(A4用紙2枚以内)
 - (5) 今後の研究計画及び抱負(A4用紙2枚以内)
 - (6) 推薦書または応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先
7. 公募締切: 平成19年10月16日(火) 必着
8. 書類提出先: 〒611-0011 宇治市五ヶ庄
京都大学防災研究所担当事務室
地震予知研究センター
地震予知情報研究領域教授選考委員会 宛
(封筒の表には「教員応募書類在中」と朱書きし、郵便の場合は書留にすること)
9. 問い合わせ先:

〒611-0011 宇治市五ヶ庄
京都大学防災研究所担当事務室気付
地震予知研究センター
地震予知情報研究領域教授選考委員会
e-mail: asada@uji.kyoto-u.ac.jp
(封書またはEメールに限る)
10. その他:

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月17日送信しました)

○教員公募

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 助教 1名
2. 所 属: 地球計測部門
3. 研究分野: 総合測地学
衛星重力ミッション, InSAR, GPS, 絶対/相対重力測定などの測地技術を総合的に駆使して、地震・火山活動に関する先端的研究を推進する方を募集します。測地分野での経験は問いませんが、解析や理論展開に高い能力を持つとともに、チームで協力して実施する観測にも積極的に携わる柔軟さが求められます。また、採用後は本学教授・准教授と協力して、大学院教育にも携わる予定です。
4. 採用予定時期: 決定次第できるだけ早い時期
5. 応募資格: 博士の学位を有する者(外国での同等の学位を含む)
6. 任期について: 本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超えることとなる者については、所属する分野の職に任期を定め、その職の任期は5年以内とする。再任については本研究所教授会の承認を得た場合は1回限り可。(ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない。)また、本公募により雇用された助教は、採用後10年を目処に教授会による研究業績等の総括的評価が行われる。
なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。
7. 提出書類: 【提出書類は返却しません】
 - (1) 履歴書(市販用紙可)
 - (2) 業績リスト(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
 - (3) 主要論文の別刷り3編程度(コピー可)
 - (4) 研究業績の概要(2000字程度)
 - (5) 今後の研究計画(2000字程度)
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の氏名と連絡先とe-mailアドレス
8. 公募締切: 2007年10月31日(水) 必着
9. 問い合わせ先: 東京大学地震研究所附属地震地殻変動観測センター 佐野 修
TEL: (03) 5841-5892 FAX: (03) 5841-8265
E-mail: osano@eri.u-tokyo.ac.jp
10. 応募書類提出先:
〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所庶務チーム(人事)宛

封書を用い、表に「総合測地学 助教応募書類在中」と朱書き、書留郵便で送付してください。

11. その他: 応募書類に含まれる個人情報には選考及び採用以外の目的には使用しません。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月10日送信しました)

○平成20年度深海調査研究課題及び海洋地球研究船「みらい」研究課題の募集について

独立行政法人海洋研究開発機構は、海洋に関する基盤的研究開発の一環として、深海調査研究及び海洋観測研究を推進するため、平成20年度に実施する「深海調査研究課題」及び「海洋地球研究船『みらい』研究課題」を現在募集中です。

募集期間: 平成19年7月2日(月)~8月2日(木)までの約1ヶ月間

詳しくは海洋研究開発機構のウェブサイト (<http://www.jamstec.go.jp/>) の『最新情報』をご覧ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月2日送信しました)

○IBM workshop DEADLINE EXTENDEDのお知らせ
REMINDER: Applications due for Workshop on Subduction Factory Studies in the Izu-Bonin-Mariana Arc System DEADLINE EXTENDED to July 22

Apply here: <http://www.nsf-margins.org/IBM07>
Convened by: Patty Fryer (Univ. of Hawaii), Shuichi Kodaira (IFREE/JAMSTEC), Jeff Ryan (Univ. of South Florida), Bob Stern (Univ. of Texas at Dallas), Yoshiyuki Tatsumi (IFREE/JAMSTEC), and Doug Wiens (Washington Univ. in St. Louis)

A workshop on Izu-Bonin-Mariana (IBM) arc subduction studies will be held in Honolulu, HI, Nov. 7-10, 2007, co-sponsored by MARGINS and IFREE (Japan).

Objectives of the workshop are to: 1) learn what we have discovered about how the IBM subduction factory operates; 2) synthesize results in the context of the MARGINS Subduction Factory Initiative, and 3) integrate MARGINS-SubFac-IBM and IFREE science goals with the objectives of the other research programs, including IODP, studies stimulated by Law of the Sea, and NOAA's Submarine Ring of Fire efforts. The workshop will also address subduction-related problems articulated in the IODP Initial Science Plan (ISP). Speakers will be asked to address the extent to which their research helps to answer the central "Subduction Factory" questions, and a day will be spent

considering additional efforts needed to answer these questions.

There will be a session on the development and testing of curricular materials for use in college-level geosciences courses, as part of a MARGINS educational project.

Participants chosen from applicants to this announcement will be provided with full or partial funding of their costs of travel, accommodation and meals. We encourage applications from those interested in this scientific endeavor, including those from outside the USA, and especially encourage applications from young investigators and under-represented groups.

Present or previous MARGINS or IFREE funding is not a prerequisite for attendance.

Applicants should prepare a brief (no more than two pages) resume, and a brief (half-page) statement of why they are interested in participating in the meeting, and an abstract of what they hope to contribute to it.

Detailed instructions are included on the web application form. Applications should be submitted online at: <http://www.nsf-margins.org/IBM07>

Applications close on July 22, 2007.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月12日送信しました)

○火山学会秋季大会のご案内

秋季大会は島原市において11月18日(日)に開催されます。現在講演申込中です。郵送申込は8月8日学会事務局必着、Web申込は8月22日午後4時までとなっていますので、講演希望者は忘れずにお申し込み下さい。詳細は、大会ホームページ

<http://www.sevo.kyushu-u.ac.jp/kazan2007/>

をご覧ください。

火山学会秋季大会に引続き開催される火山都市国際会議の宿泊予約が締切られたことから、島原市内の宿泊施設のブロック予約が解除され、余った部屋は7月末に各宿泊施設に返却されました。現状では、11月17日夜の宿泊はまだ余裕がありますが、11月18日以降はシングルルームは残室がごく僅かになっており、ツインや和室も残室が少なくなっています。また、11月16~17日は島原市で災害情報学会も開催されることや、この時期が修学旅行シーズンでもあることから、速めの予約をお勧めします。

日本火山学会秋季大会実行委員会では、宿泊施設の斡旋は行っていません。宿泊施設に直接、もしくは旅行代理店を通して予約をしてください。島原市内の宿泊施設

については、島原市観光協会のページ

<http://www.shimabaraonsen.com/hotel/hotel.htm>

を御参照ください。(島原市内のホテルからは、会場まで無料のシャトルバスが運行される予定です。)また、車で約40分ほどかかりますが、雲仙温泉街も宿泊が可能です。宿によっては送迎バスも出してもらえます。雲仙観光協会のページ

<http://www.unzen.org/japanese/yado/>

を御参照ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月6日送信しました)

○日本原子力研究開発機構 - 報告会開催のお知らせ

日本原子力研究開発機構は、北海道幌延町および岐阜県瑞浪市で進めている深地層の研究施設計画における第1段階(地上からの調査研究段階)の研究開発成果に関する報告会を開催いたします。

●テーマ: 瑞浪、幌延における地上からの調査研究の成果報告—地層処分技術と信頼を支える研究開発: 概要調査への技術基盤の確立—

●日 時: 2007年々9月18日(火) 13:00~17:00
(受付開始 12:30)

●場 所: JAホール(東京都千代田区大手町1-8-3, JAビル9F)

●参加費: 無料(事前の登録をお願いします)

●主 催: 独立行政法人 日本原子力研究開発機構

●プログラム

第1部: 瑞浪、幌延における地上からの調査研究の成果報告

座長 小島圭二(地圏空間研究所)

- (1) 全体概要
- (2) 瑞浪超深地層研究所における花崗岩の調査研究
- (3) 幌延深地層研究所における堆積岩の調査研究
- (4) 地層処分システムの工学技術と安全評価手法への活用
- (5) 研究開発成果の知識化
- (6) ポスターセッション

第2部: パネルディスカッション

コーディネーター 西垣 誠(岡山大学)

テーマ: 「瑞浪、幌延の今後の進め方—深地層の研究に何を期待するか?—」

パネリスト(予定):

小島圭二(地圏空間研究所)、柘山修(東北大学)、中村浩美(科学ジャーナリスト)、北山一美(原子力発電環境整備機構)、川上博人(原子力安全基盤機構)、河田東海夫(日本原子力研究開発機構)

●申込方法

電子メールにて、氏名（フリガナ）、所属（会社名）、電話番号を明記の上、下記の報告会事務局宛にお申込下さい。

日本原子力研究開発機構 地層処分研究開発部門
研究開発推進室 担当：島田，北谷

電子メール：chiso-hokokukai@jaea.go.jp

詳細は以下の URL をご覧ください。

http://www.jaea.go.jp/04/tisou/nendo_houkokukai/pdf/annai19.pdf

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月8日送信しました）